

キャリア教育を基盤とした、小・中及び地域との連携 ～地域の「人・もの・こと」とのかかわりを通して～【山口市 白石中学校区】

地域の概要

白石中学校区は、県政・市政の中核的機関や官公署が集まる、旧市内の中心に位置しています。本中学校区には、附属小・附属中・山口高校や、白石地域交流センター・市民会館・山口情報芸術センター・市立図書館・歴史民俗資料館・県立の図書館・美術館・博物館・埋蔵文化財センターなどの教育・文化施設が集中しています。

また、旧国道9号が校区の中央を南北に走り、主としてその東側は商店街、西側は学校・官公署・住宅地となっています。本中学校区は、北に隣接する大殿中学校区とともに、大内氏が威勢を誇り、西の京といわれた時代から江戸時代・幕末を経て、明治維新に至る遺跡旧跡が各所にあります。戦国城址鴻ノ峰と、伝説を秘めた亀山公園を背にした本中学校区は、名実ともに古都山口市の中心に位置しているといえます。

人口	10,261人	
世帯数	4,405世帯	
対象校及び 児童生徒数	白石中学校	290人
	白石小学校	655人

組織の内容

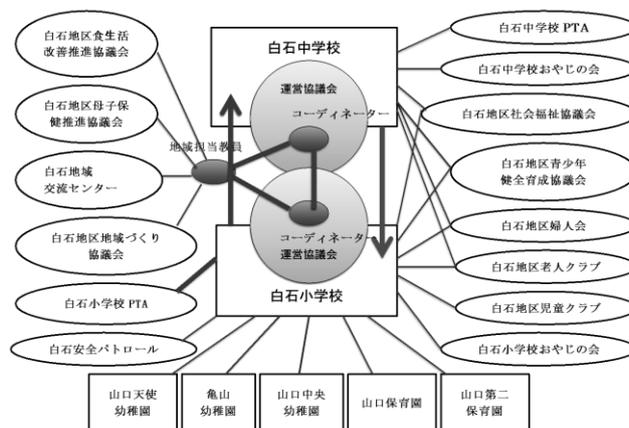
白石小・中学校は、平成23年度からコミュニティ・スクールとして、それぞれ学校運営協議会を組織しています。自治会連合会長、地域交流センター所長や、地域の方々をはじめとした有識者、PTA代表等で構成されています。

小学校では、平成24年度に3名の地域コーディネーターを委嘱して以来、クラブ活動の外部講師を探したり、学校行事の際に地域と学校をつなぐ役割を担ったりしています。

また、白石地区地域づくり協議会の事業にPTAが参加し、“あいらぶ白石”事業を展開し、小学校の総合的な学習の時間との連携を推進しているところです。

中学校では、地元企業や事業所等と連携した教育活動として、職場体験を行っています。運動会などの学校行事や授業参観日には、地域の諸団体の方を招き、評価をいただくなどして「開かれた学校づくり」を進めています。

このように、白石小・中学校は、多くの地域の方々に支えられ、安心して特色ある教育活動を行うことができているといえます。



白石地域協育ネット

特色・重点的な取組

○小中合同学校運営協議会の開催

小・中学校がそれぞれで取り組んでいる教育活動を、共通理解し、共同実践していくために、小・中合同で学校運営協議会を本年度2回開催しました。会では、お互いに教育活動の紹介をし、小学校と中学校をつなぐ系統的な教育活動の必要性を改めて認識することができました。また、地域の安全上の問題点や共通の課題も共有することができました。

○小・中教職員・学校運営協議会委員合同研修会

今まで行っていた小・中合同教職員研修会を発展させ、学校運営協議会委員との合同研修会を開催しました。小・中学校の教職員だけでなく、地域の代表である学校運営協議会委員と膝を交え、地域でどのように子どもを育むかについて真剣に協議しました。

○小学校の「夏休み学びっこ教室」に、中学生が先生役として参加

中学生が先生役として、学習支援を行いました。児童生徒がともに目を輝かせて活動することができました。

主な活動の紹介

○小中連携

- ・小・中教職員合同研修会を発展させ、学校運営協議会委員との合同研修会を開催しました。協議題を「白石小中学校連携教育～明日への第一歩」とし、参加者の交流を深めるアクティビティや「白石地区の特徴ある場所」の写真を使ったクイズ、「地域を生かした教育活動」の紹介や新たなアイデアの考察を行いました。
- ・中学生が小学校の「夏休み学びっこ教室」の先生役として学習の補助をしました。3年生以上の小学生が行うプリントの丸付けや、分からない問題の支援を行いました。



小・中・地域合同研修会

○キャリア教育を基盤とする連携

- ・9年間のねらいを「あこがれづくり」と「自分づくり」として明確化・共有化しました。
- ・小学校では、働く人とのかかわり・様々な立場の人とのかかわり・子ども相互のかかわりなど、人との多様なかかわりを整理・明確化し、その充実を図りました。（あこがれの広がり）
- ・中学校では、「より現実的な生き方の探索」をねらい、職業講話・職場体験等において、「やまぐち教育応援団」登録の事業所等にもご協力いただき、講話内容や体験内容を中学校と各事業所等とが共通理解して取り組みました。（あこがれの深まり）
- ・小学校では2分の1成人式、中学校では立志式を行い、夢や志を育てていくことに取り組んでいます。



夏休み学びっこ教室

○地域とのかかわりの広がり

- ・小学校では、縦割り班での「ふれあいウォークラリー」を実施しました。各班それぞれで校区内を歩きながら「働く人へのインタビュー」「史跡等に関するクイズ」「地域の自然を活用したゲーム」など、地域とのかかわりを深めるチャレンジ課題に取り組みました。当日の運営だけでなく、コースや課題の設定において、学校と地域との連携を生かしました。
- ・中学校では、生徒会が中心となって、JRC（青少年赤十字）活動としての地域清掃を毎月行いました。休日に多くの生徒が集まり、地域のゴミ拾いや落ち葉清掃などを行いました。一方で、地域交流センターが主催する「白石フェスティバル」、社会福祉協議会が開催する「敬老会」に、中学生がボランティアスタッフとして参加するなど、相互交流を深めています。



職場体験



地域清掃活動

成果と課題

中学校の教員が小学校で出前授業を行ったり、小学校6年生が中学校の授業体験をしたり、中学生が先生役として小学生の学習支援をするなど、活発に小・中・地域の交流を行いました。小学生は中学生への「あこがれ」を強め、中学生は先輩としての自覚を高めることができました。また、学校運営協議会を小・中合同で開催するなど、小・中学校と地域の連携を強める取組を実現することができました。

このような学習や取組を通して、児童生徒は、今まで以上に白石地域に愛着をもつようになってきているとともに、教職員や地域も、9年間という長い目で白石地区の子どもを育てていこうとする意識が明確になってきました。今後は、地域コーディネーターを有効に活用し、小中連携を更に進めながら、小学生が中学生に「あこがれ」をもち、中学生は地域の大人に「あこがれ」をもつなど、「あこがれ」の輪が広がっていく取組を、さらに充実させていく必要があります。

今後の取組

小中連携やキャリア教育を基盤とした連携や地域との連携では、様々な取組を行い、成果も上がっています。今後は、小・中学校それぞれが行ってきた教育活動の中から、更に共同実践できるものや小・中が連携して取り組むべきものを再発見したり、地域教材を発掘したりしていきたいと思えます。